

西林木町の中組町内にある神社は「伊努神社」と呼ばれ、西林木の総氏神として祀られています。この「伊努神社」は出雲国風土記にも明記されており昔は伊努郷の郷社であったと言われています。

御祭神は国引きした八束水臣津野命（別名・八握意美豆努命）の子「赤衾伊努意保須美比古佐和気農命・あかぶすまいぬおうすみひこさわけのみこと」が祀っております。

「八握意美豆努命・やつかみずおみずのみこと」は「伊努大州見彦命・いぬおうすみひこのみこと」と解釈され、大州を見守る神様です。

言い伝えによりますと、出雲の神話「国引き」で最初に孤島が本島に繋がった場所がこの地、伊努郷と言われており「伊努神社」は、州つまり大地を守る御祭神を祀る神社で、延喜式神名帳にも載っている、いわゆる「武内社」で由緒ある神社です。

「伊努神社」の創建は、古い時代に

は伊努谷川の上流の、通称「小床」と呼ばれる所にありました。が、神社取調書によりますと、天正十三年（一五八五）に鳶ヶ巢城主・宍道政慶公が日下境の神田という所に百貫の土地を寄付され、三間四方の社殿を造営されたと伝記されています。

そして、関が原の戦いの後、宍道政慶公は長門方面へ落行、社殿は破壊し、現在地へ社殿を縮めて建立されたということです。

また、古老の話によりますと、「伊努神社」には、昔から「伊努神楽」と呼ばれる有名な神楽があったそうです。

伊努神社奉納の神楽でしたが、終戦直後に神楽衣装・面など神楽の道具が一切失われてしまいました。

僅かに残っていた一冊の「神楽台本」には、「天保九年（一八三八）」の文字、そして、七座の神楽舞が記帳され、神楽の囃子・舞の振付・等も記帳されています。

いつの日か鳶ヶ巢に「伊努神楽」が復活し町の活性化へとつながればと期待しています。

